

【公開用】

第3回

上野地区まちづくりビジョン推進会議

日時：令和5年1月26日（木）

10:00～12:03

場所：台東区役所10階 1002会議室

午前10時00分 開会

1 開 会

2 座長・副座長選出

3 座長挨拶

4 議 事

(1) 第2回推進会議の振り返りについて

○座長 最初に前回第2回推進会議の振り返りからよろしくお願ひしたいと思います。

<事務局より【資料1】について説明>

○座長 ありがとうございます。

今御紹介いただいたとおり、2つの部会でこれまで議論を重ねていただきました。上野をどのように使っていくのか、あるいは上野をどのように作っていくのか、それぞれに個別の話題を深めていただいておりますが、そういう全体をもう一度見てみるという会が今日の会だと心得ております。

今の資料に関して質問等があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。――よろしいですか。

中身はこれから個別の御説明を頂きますので、もし中身をもう少し知りたいということであれば、それぞれの部会の説明の後に御意見を頂きたいと思ひます。

(2) まちづくり推進部会における検討状況について

○座長 それでは、議事次第の2番目に移りたいと思ひます。

まず、まちづくり推進部会における検討状況について御報告を頂こうと思ひます。

部会長が今日は所用で御欠席ですので、一緒にまちづくり推進部会で指導いただいております学識委員から御発表いただきたいと思います。

<学識委員より【資料2】について説明>

○座長 ありがとうございます。

お手元に参考資料でこういうもの（上野マップ）もついておりますので、もしよろしければ後ろのほうの地図を広げながら御覧いただくと、確かに南北方向にやや長い地形も含めて、そういう中での上野をどのように使いこなすかということで、皆さん誰もが使える場所という意味でパブリックスペースというものを取り上げられて議論を進められているということでございます。

それでは、この点に関して何か御質問あるいは御意見があれば頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。——まだよろしいですか。

これから具体的にカレンダーをつくって、何がどこで起きているのかという情報を一元化して、多分具体的にそれを発信する方法も考えなければいけないですね。

○委員 もちろんそれもセットです。

○座長 どういう形で誰が情報を集めて、誰がどういう形で発信するのかということより具体的に詰めていただくのが次のフェーズということになるかと思います。

よろしいでしょうか。

私から1点だけよろしいですか。確かにターゲット10+で12のエリアを取り上げられて、この情報を整理されるというようにも見えるのですが、下のほうに書いていらっしゃる東博とか科博とか、ここもぜひ御一緒に情報としては提供していただきたいと思うのです。ですから、今日もいろいろ管理側のお立場の方もいらっしゃいますけれども、ぜひこの辺まで含めた情報を広く都民あるいは海外からお越しになる方に対して分かりやすくどう発信するかということですよ。

○委員 はい。

○座長 これはなかなか難しいとは思いますが、1年間の大きなスケジュールを見ながら、しかも同時に、今少し御心配もされていましたが、コロナが収まってくると逆に先ほどのように一気に増えてくるということも、うれしい悲鳴ではあるのですが、逆に留意しなければならないことも出てくるということかと思いますが、うまくそうい

う皆さんの行動を誘導するという言い方はあまりよくないかも分かりませんが、バランスが取れるように配慮していただければいいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 ありがとうございます。

○座長 特に皆さんから御質問はよろしいですか。また最後、もう一つの部会もあるので、その部会のお話を聞かれてからもう一度皆さんから御意見を頂こうと思います。

(3) 基盤整備推進部会における検討状況について

○座長 それでは、続いて、基盤整備の関係について議論していただいています。基盤整備推進部会部会長から御紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

<副座長より【資料3】について説明>

○座長 ありがとうございます。

今御紹介いただいたとおり、2つの部会でそれぞれ使い方とかハードな空間の整備はどのように考えていくのかということについて議論していただいています。続いて、資料4というのが最近の状況を説明して下さる資料で、この1枚目のところで、最近もいろいろと動きが出ていますということをお紹介いただくということになっていますが、先ほどオブザーバーは11時には退席されなければいけないという話だったので、とりあえず全体像を御覧になって、何かアドバイスがあれば頂きたいと思います。

○オブザーバー こんな途中で話しすることになって申し訳ありませんが、今後の御説明にもつながると思うので、一般論的に2点だけ申し上げたいと思います。

1点目は、今日のこの場は、上野が大好きで上野を愛しておられる方々と、上野で何らかの仕事を展開されている方と、そういった上野に人が来てほしい人の集まりだと思っております。そういう場で議論するというのは普通そういうことになるので、そういった方々がいろいろな議論をするというのは非常にいいことだと思うのですが、一方で、多分、ここに来てもらって歩いてほしいとか、にぎわいをつくってほしいと思っているターゲットの方は、変な言い方ですけども、別に上野でなくてもよくて、どこか別のまちでも楽しければよかったり、動物園とか博物館とか何か目的があって来られたかもしれないけれども、上野が面白くなければさっさと帰ってもいい人たちだと思うのです。そういった視点とい

うか、我々も上野をどうしようという議論をするのだけれども、例えば大阪のどこかのまちに行ったときに、そこに同じように動くのかどうかとか、そういった視点でものを考えたほうがいいかなと思います。そういうことは当然いろいろな議論の中で、先ほどの歩け歩けではないですけれども、線を引けば歩いてくれるということにはならないので、そういった視点で、調査とかも含めてだと思えますけれども、議論をされることが大事かなと思えました。

もう一点、先ほどの委員とか副座長の御報告の中で歩けばいいみたいな話ではないという話もありまして、我々はウォーカブルなまちづくりを仕事で担当していますが、昨日たまたま職場で、東京ではない、あるまちのウォーカブルの話になって、何かウォーカブルを頑張っているのだけれども犬の散歩ぐらいしか歩いている人がいないみたいな話になって、犬の散歩も歩いている人なのですからけれども、犬の散歩で歩いている人は多分この議論で求めている人たちではないのではないかと思います。居てもいいと思いますが、別に犬の散歩をする人だけがワーワー上野のまちを歩いてくれればいいということではないと思います。ですので、どういった方がどういった目的で歩いているのかということも、先ほどの話にも関連すると思えますけれども、一緒に考えたほうがよくて、これも調査とかを進めていく上では考えられたほうがいいと思えました。

以上2点でございます。

○座長 ありがとうございます。

お使いになる方がどういうふうに上野を感じているのか、何を求めて上野にお越しになるのかというような視点を大事にした議論が要るのではないかと。

東京そのものについて森記念財団がかつて調査したものがありまして、ロンドンとかパリという都市は、行ったことがない人も行ったことがある人も同じような印象を語ると。東京に関しては、来たことがない人は、far、遠いとか、congested、混んでいるとか、over-crowdedとか、そんな感じのイメージをどうしても持っているそうで、来た人はどうかというと、well-organized、よく組織されているとか、cleanとか、かなり印象に差があるということを言われています。足を運んでいただくことの大事さを言っているような気もしますが、上野もそういう意味では、どういうふうに皆さんから思われていて、来た人はどういうふうに思われたのかというのは確かに何かあるかも分からないですね。

ありがとうございます。ぜひ引き続き御支援を頂きたいと思えます。

(4) 上野地区まちづくりの最新情報の共有について

○座長 それでは、部会の議論を頂くことも考えましたが、資料4も御説明いただいて、部会で議論した結果が今こういうふうに進んでいますよということを含めて意見交換したほうがいいと思いますので、資料4の説明もお願いできますか。

<事務局・オブザーバー・委員より【資料4】について説明>

○座長 ありがとうございます。

最近の様々な動きを御紹介いただきました。

(5) 今後の進め方について

○座長 時間の関係もあるので、今年の進め方まで全部説明してしまってから意見交換しましょうか。特に、今のようなお話が今年はどのように進むのかということ区としても考えられているようなので、その辺のことを御紹介いただいて意見交換としたいと思いません。

よろしくお願ひします。

<事務局より【資料5】について説明>

○座長 ありがとうございます。

それでは、残っている時間は限られておりますが、各委員からいろいろ御意見を頂きたいと思ひます。いかがでしょうか。どこからでも結構でございます。

先ほど寛永寺さんの400年のお話がございましたけれども、今年には実は関東大震災100年なのです。それは特にイベントは何も考えられていないのですか。

○事務局 御報告します。

関東大震災100年につきましては、今後どのような事業ができるかというので庁内で検討は進めていると聞いております。うちのまちづくりのほうにつきましても、シンポジウムの中で関東大震災100年の関係もございしますので、基調講演のお話の中でそういっ

たお話をさせていただく場面があるかとは考えてございます。

○座長　そして2年後に寛永寺さんの400年で、その2年後に銀座線の100年なので
すね。これはメトロさんで何かおやりになるのですか。

○委員代理　今検討中です。

○座長　このように節目が幾つか出てきますので、先ほどのカレンダーもその辺まで視野
に入れてやっていただくと、先ほどの各館のいろいろなイベントも、さっとすぐに今年や
るからといって手を握れるというのはなかなかないですよ。これはちょっと時間がかか
ると思うので、短期間のスケジュール感を皆さんで共有できるといいですね。ありがとう
ございます。

いかがでしょうか。どうぞ皆さんから。

○オブザーバー代理　交通管理という面で興味があるのが中央通りの道路利活用の社会実
験なのですけれども、将来的に広小路のヒロバ化実験という形で第1段階、第2段階、第
3段階とずっとやっていくということがこちらの資料に書かれていて、先ほど御説明いた
だいたと思います。第1段階をやる分には恐らく単発のイベント事ということで、上野警
察署に御相談いただいて道路使用という形になろうかと思います。その際には、以前にも
やられているということなので当然御認識いただいているのですけれども、通れな
くなくなるところができますので、通過交通でふだん通っている人たちが迂回する。迂回する
ことでのほかの道路への影響ということと、そこに物流の関係の人たちが集まってきてい
るので、物流の関係への影響をどうするか、あとは、上野という特殊な場所というか、駅
がありますので、駅に集まってきて駅を使う交通の結節点としての機能もありますので、
そういったところで結節点としての駅前広場の機能も維持していきながらイベントをやっ
ていただく。

単発のイベントはそこを乗り切れればよいというところではあるのですけれども、第2段
階以降の話になってくると、道路というのはネットワークとして機能するという部分もあ
りますので、そこをずっと使えなくなってしまうということになると相当な影響が出てく
ると思います。この場ですと基盤整備の部会の議論でメインに議論していくと思いますの
で、そういったところと連携を取ってやっていただければと思います。

あと、その際、特にイベントのときは地元の皆様方が主体となってというところはある
かもしれませんが、大きなところで影響も大きいので、台東区さんの関与、バックアッ
プというか、台東区さんが引っ張っていくぐらいの感じで応援していただければと思いま

すので、よろしくお願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

今回の中央通りの話に関しての御注意をいろいろ頂いていますので、ぜひ適宜相談させていただいて、またアドバイスを頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

ほかにはいかがでしょう。

○オブザーバー 先ほど周年事業のお話が出ましたが、本年2023年は都市公園制度が150周年を迎えまして、すなわち都立公園、上野恩賜公園も開園150年を迎えます。上野恩賜公園の開園は10月を記念日としており、そこを中心に周辺の施設の皆様にも御協力いただきながらイベント等を計画しておりますので、よろしくお願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

中核も中核ですので、ぜひ頑張ってみみんなで盛り上げていきたいと思います。まちづくり協議会の皆さんとも、あるいはアートクロスの皆さんとも当然うまく連携してやりたいですね。ぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょう。

先生方から、ほかの方のお話も聞かれて何かアドバイスがあれば頂きますが。

○委員 先ほど上野まちづくり協議会の会長から上野まちづくり協議会としてイメージしていらっしゃることをお話しいただきましたけれども、上野のまちとして一体どういうことをしていくべきかということを議論するとき、400年の歴史を振り返っていき、その中で象徴だった広小路のシンボル性を取り戻していきたいというお言葉がございました。これは上野の個性の一つでもありますし、その後、上野戦争があって山の上に公園ができて、我々藝大なんかはもしかすると後からお邪魔したほうになるのかもしれないけれども、そういった歴史性みたいなものは全体をイメージしていくときの一つの物語になっていくと思ひまして、そのように見ていきますと、アートクロス広場は上野の近代の象徴、明治以降の近代の建物が集まっている場所が可視化されている場所でもありますし、もちろん竹の台広場は言うまでもないのですけれども、そして広小路のほうはもう少し江戸東京の記憶を取り戻す場所になるかもしれないというように、ターゲット10+のそれぞれの場所がいろいろな意味を持っていて、それをどのように上野のまちとして少しずつ取り戻していきながら新しい上野のイメージを発信できるか。上野のイメージというのは江戸の400年のイメージ、将軍の御成道であって将軍が江戸城から寛永寺に通っていった道でもありますので、この中央通りの広小路というのは、先ほど東京に来る人のイメージがロ

ンドンやパリと違って定まっていないというのがありましたけれども、江戸東京のイメージをどこから発していくかというときに、この上野のパブリックスペースというのはそういう場所になる可能性のある場所の一つではないか、東京にとっても象徴的な代表するパブリックスペースの一つではないかなと考えながら、こういうまちの絵を描いていけるといいなと改めて思いました。

○座長 ありがとうございます。

先ほども御紹介があったとおり、そもそも公園が最初に規定されたときにも、そういう寺社仏閣のところを中心にしながら、みんなの空間ですよ。昔の切絵図を見ても、そこは比較的人が入れるということがちゃんと分かるようになってはいますが、そういう意味では歴史的なものが積み重なっている場所ではありますよね。ありがとうございました。

ほかの先生方、いかがでしょうか。

○副座長 私が担当させていただいている基盤整備推進部会に関することなのですが、今年のスケジュールを見ましても、比較的公共空間の整備、使い方が中心で、時間のかかることなので仕方がないと思うのですが、少し大げさにといいますか、大げさでもないのだけれども、見ると、東京の山手線等の各ターミナル駅というか主要駅がだんだん変貌を遂げていっているその一環であると言えることは確かだと思うのですが、かといって、上野の性格は、歴史の話とかを含めると、がさっと壊して全部を今風に建て替えるというまちでもなかろうと思うのです。とはいえ、公共空間の使い方を延々議論していてもそうは変わっていかないだろうと思うと、宅地側が一部変わっていくということは非常に重要なので、地権者という意味でもほぼここにお集まりですので、ここにお集まりの皆さんの中で御自分の場所をどのように次の時代に合わせて変えていくかという議論も、多分基盤整備推進部会がその場になると思うのですが、そういったこともやっていけたらと思っております。

そのときに、今思いつきみたいに思ったのですが、地元の方がいらっしゃるので間違いかもしれませんが、その昔、アメ横のセンタービルを建て替えると聞いたときに私は非常に衝撃を受けまして、あそこがなくなってしまうのかと思ったのです。それで建て替えて新しいビルになったわけですが、案の定、見た目は何も変わらない。それは多分その場所に刻まれた強い個性だと思いますので。でも建物も中身も更新された。だからああいう感じかもしれないと思うのですが、建物なりその使われ方が更新されつ

つ、でもやっぱり上野はがらっとは変わらないだろうと思うのですけれども、そういう議論も一緒にできたらと期待しております。

○座長 ありがとうございます。

一方で先ほど御紹介のあったメタバースみたいなのが出てきますよね。だから全く違う仮想空間で、この間も別のところで某デパートのメタバースというのを見せてもらって、買い物に自分で入るわけですがけれども、先ほどの東博さんの中もそうだし、それぞれの美術館も多分そういうものを自分でお考えになっていると思うので、うまくプラットフォームをつないでいただきながら、ぜひそれをまちへもつないでいただくといいですよ。ありがとうございます。

○委員 委員からもお話がありましたけれども、2023年という今年を考えますと、世界的に猛威を振るったコロナ禍の後の1年間という、まちとしても非常に大きなターニングポイントになっているかと思えます。この3年間の間に消費者意識が変わったところもあれば変わっていないところもある、まちに対しての意識が変わったところもあれば変わっていないところもあるという中で、上野に国内外の人たちが、あるいは近郊の人たちが何を求めているのかというところを改めて確認するという作業をしながらというのが今年になってくるのではないかと思います。まち部会にいたしましても、ウォーカブルとか、人間中心のまちとか、キーワードは出てきているわけですが、これがそもそもどういう消費者とか人々のニーズのためにあるのかということを一確認しながらやっていくということの方向感が非常に重要ではないかと考えている次第でございます。といいますのも、先ほど単に歩けばいいという話ではないよねということもあったように、得てしてこういったキーワードは独り歩きして目的化してしまうということがありますよね。そもそもウォーカブルにしても、上野のまちに自動車とかではなくて人々が集える、のんびりできる、居心地のいい空間をつくるということが先だったわけで、そこがなくて独り歩きしてしまうと変な話になってくるということもございますので、特に当初こちらの推進会議が始まった時期とまちの環境が大きく変わっているというところも踏まえて、その根本のところも意識しながら議論を進めていけたらと考えております。

もう一点は、先ほどからもありましたとおり、基盤とまち部会ということで、基盤が決まらないとまちが動けない、まちのソフトが決まらないと基盤も動きようがない、運用イメージが分からないと動けないよねということがどうしても起こりがちになるので、これがないようにしたい、スピード感を持って連携を取っていききたいというのが私の非常に大

きな問題意識でございます。

○座長 ぜひ連携を取ってやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

ほかの皆さんからいかがでしょうか。この際、ぜひ御発言を頂きたいのですが。

○委員 まちづくり部会への質問なのですけれども、ターゲット10+というのはパブリックスペースのことですか。

○委員 この場合パブリックスペースは既にあるわけで、それをつなげていって一つのブランディングをするみたいに思っただけであればいいかと思います。

○委員 僕が分からなかったというだけなのですけれども、一元的マネジメントに向けてという、この「一元的マネジメント」というのはどういうことですか。

○委員 例えば委員であれば御徒町方面に関わりがあると思うのですけれども、それぞれやっていらっしゃる主体が違うわけですね。アトクロスであれば文化の杜であるとか、竹の台であればあそこのイベントスペースはまた別の主体がやっていたりとか、それぞれ大きさも違えば、向いているアクティビティの主体も違うわけです。まずそれ全部を、例えば台東区とかが全てを運用するというのは現実的ではないし、不可能だと思うのです。ただ、少なくともこのエリアには、例えば上野でイベントをしたい、上野で何かをしたいという方は潜在的にはかなりいらっしゃると思うのですけれども、自分のところのアクティビティがどのスペースに向いているのかというのはよく分からないと思うのです。こういった情報、音楽関係のこういうのであればここがいいのではないか、平日が希望であれば、あるいは予算がこのぐらいであればここがいいのではないか、こういったことが一覧に見えて、自分たちであればここに申し込んでみようと、主体自体はばらばらであったとしても、ワンストップでターゲット10+にリストアップされた空間がどういう特性を持って、どういう手順でどうやるのか、あるいはスケジュールがどうなっているのかというのがぱっと分かるようになれば非常に利活用は進んでいくし、それぞれの空間に合ったアクティビティを誘導していくこともできると思うのです。そのあたりのことがここで言われている「一元的なマネジメント」のイメージだとお考えいただければと思います。

○委員 要するに外部の方がいろいろとアクセスして理解しやすいようにという。

○委員 はい。

○委員 分かりました。

○座長 ワンストップ化みたいなプラットフォームですかね。

○委員 そうですね。

○座長 ほかにはいかがでしょう。

○オブザーバー代理 今日はいろいろ御意見を伺えて非常に参考になりまして、特にまちづくり推進部会の意見で、先ほど委員もおっしゃられた歩かせることの意味や目的、ウォーカブルとか杜とまちをつなぐ目的をいま一度考えていくことはまちづくりをする上で非常に重要とされていて、特に南北方向のウォーカブルもありますし、東西の話を考えるときに、そもそも何のためにそれをやっているのか、居心地良く人が歩けるようにとか、にぎわいの連続性とか、そういったところを見ていくと、各街区というか、そのまちに必要な機能が見えてくると私は思っています。先ほど事務局から、エントランス街区、東上野のところのまちづくりの話が出ましたけれども、そこで低層部ににぎわいとか公益施設とかそういったものがあつたと思うのですけれども、そこを考えていくときに、まず全体像としてまちにどういう機能が必要なのかというのが大まかでもあつた上で、個別の街区の中でこういう機能を入れていこうとしたほうが、進める上でもいろいろ区民の理解を得られやすいと感じたので、意見としてお伝えいたします。

○座長 ありがとうございます。

○委員 今の御意見は全くおっしゃるとおりだと思つていまして、一つ私から付け加えるとしたら、ここ2～3年間は非常に例外的な時代だつたと思うのですけれども、この例外的な時代だつたところで、上野の場合、社会問題化したようなことも含めてある意味ニーズはあつたと思うのです。潜在的なニーズはあつた。緊急事態宣言中の上野がいい状態であつたとは私は申し上げませんが、少なくともあれはニーズがあつたということは示していると思うのです。そのあたりが何であつたのか、それぞれの街区に潜在的にどんなニーズがあつて人が結局集まつてきてしまつたのかとかいうことも非常に重要な分析対象だと考えておりまして、何が必要なのかということ議論するときに19年以前とまた少し違つた様相があるかと思つますので、そのあたりも積極的にフィードバックして振り返つていきながらやっていくことが肝要かと考えております。

○座長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 観光課さんにお聞きしたいのですけれども、ずいぶん前から山の中に灯籠をずっと立てていく、あれは万灯会に合わせて灯籠を立てて、そのうち大きいのが出てきましたよね。すごくでかいのが。あれについては何も書かれておりませんが、これからもお続けになる予定でございませうか。それともやめてしまうので書かないのだという話でし

ようか。

○座長 いかがでしょう。

○委員 すみません、観光課がないので代わりにお答えいたします。

あそこの灯籠なのですけれども、上野観光連盟さんと共同でやっていて、東部公園緑地事務所さんの許可も得てやっておりますが、冬場はイベントが何も無いというので寂しい。それで来てくださった方のおもてなしの一環ということも含めて毎年冬の時期に灯籠を並べさせていただいているところもございます。ライトアップの一環のような感じでしょうか。やはり小さいものだけだと寂しいので、大きいのも並べさせていただいているところもございますが、特段、説明書きが漏れているというところまで私は認識していなかったのですが、何か他意があったようなことではございませぬので、その辺は御安心いただければと思います。

○座長 御心配の向きは区の中でちゃんと整理できているのかということだと思います。区の中のいろいろな組織がまたいろいろお考えですよ。いろいろな記念の節目が来ますしね。それをちゃんと上野というエリアにおいてはここで把握できているかどうかということですよ。そのことを御心配になっているのだと思うので、いろいろな方がプレイヤーとしていらっしゃるのですが、少なくとも区の中においては最初にそれをしっかりと把握して、区として一元的に、上野についてはここで頑張るのだということを示していただけるといいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

ほかはよろしいでしょうか。

今日は時間がなくて、これ以上議論しづらいところがありますが、部会でもまた重ねて議論していただきますし、ぜひ事務局にも随時、こんなことを考えてはどうかとか、こういうことについてはどうなっているのだということでお声がけいただければ、関係機関の皆さんともそれぞれ個別に調整させていただくということだと思っています。

上野には大変いろいろなお宝があって、とても魅力的な場所であるのですけれども、杜とまちと書いたとおり、前のときにもそこをもっとつなぐともっと良くなるよねということもみんな思っているながら、どうやってやろうかということでも模索しているところです。今日もアートクロスとか、北部方面の話とか、袴腰とか、上野のまちと杜との関係のみならず、例えば谷中のほうから入ってくる新しいルートではないかとか、鶯谷のほうから入ってくる東博の北ゲートもあるのだし、新しいゲートではないかと思って考えると、上野がもう一皮、例えば浅草とどうつながるのかとか、そういうことも次の段階としてはやら

なければいけない。恐らく各まちの各地区でそれぞれに同じようにお考えがあるので、そこ連携してくると今度は東京としての魅力がさらに高まるということではないかと思えます。まず上野の価値を高めて進化して、続いてほかの地域ともさらにつながっていく、こういうことを基盤並びにまちづくりの両面から模索していきたいと思えますので、ぜひよろしく御協力いただきたいと思えます。

特に重ねてこれだけはこの御発言がなければ、一旦これで事務局にマイクをお返ししたいと思えます。よろしいでしょうか。

では、一旦お返ししたいと思えます。

5 閉 会

午後0時03分 閉会